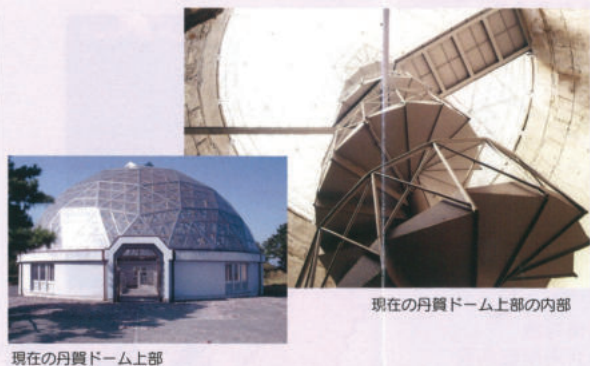
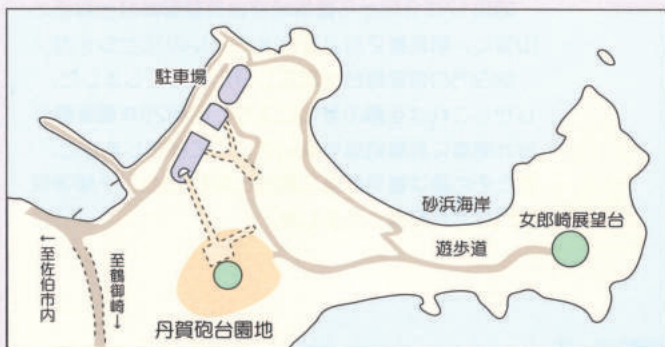


丹賀砲台園地

かつて、豊後水道の要所として部隊が駐在した佐伯市鶴見、その名残りを最も損なう事なく残しているのがこの丹賀砲台園地だ。



丹賀砲塔砲台配備図



豊予要塞築城史

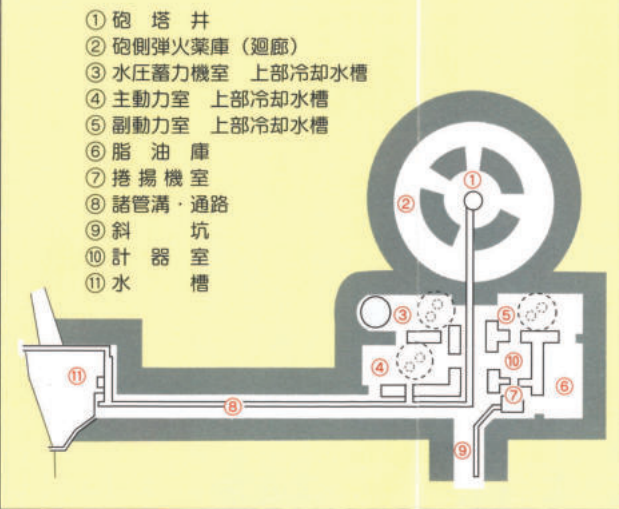
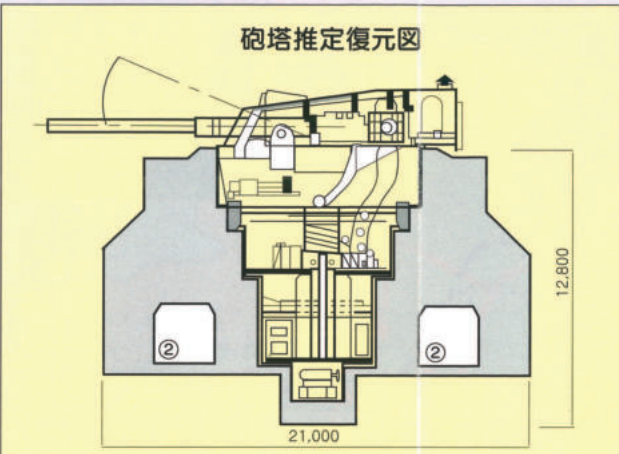
- 大正 9年 8月 築城豊予支部佐賀関に設置
- 大正15年 8月 豊予要塞司令部設置 (佐賀関)
- 昭和 2年 4月 築城部豊予支部佐伯に移転
- 昭和 2年 6月 丹賀砲台起工 (30センチ砲塔砲台)
- 昭和 4年 4月 鶴御崎砲台観測所起工
- 昭和 6年 9月 丹賀砲台竣工
- 昭和16年12月 米・英に対し宣戦布告
- 昭和17年 1月 丹賀砲台実弾試射中爆発
- 昭和17年 3月 鶴御崎砲台起工 (7年式15センチカノン砲4門)
- 昭和17年 9月 鶴御崎砲台竣工

鶴御崎丹賀砲台爆発事故

大太平洋戦争勃発直後の昭和16年12月下旬、豊予要塞司令部、要塞重砲兵連隊などに戦時編成が令達された。これに基づき要塞重砲兵連隊は、1か月後の17年1月11日に鶴御崎丹賀砲台で30センチカノン砲の実射訓練を実施した。しかし、この実射訓練の終りに発射した弾丸が腔発し、砲台は一瞬の内に破壊され、多くの死傷者を出す事態が発生した。



巡洋艦「伊吹」
明治40年(1907年)に呉海軍工廠で進水、第一次世界大戦では、インド洋に展開し、後には英国艦隊と協力してオーストラリア軍の輸送護衛にあたった戦艦であった。



鶴御崎旧軍事施設配置想定復原図



観測所跡



砲台跡

鶴御崎先端砲台の構築

昭和17年3月から鶴御崎先端現鶴御崎灯台背面の山頂に、射距離2万200メートルの15センチカノン砲四門の砲座砲台を起工し9月に竣工しました。しかしこれは空襲の激化により、昭和20年鶴御崎灯台北側崖に洞窟砲座を築いてここに移設しました。またその跡は鶴見崎第二砲台となり15センチ榴弾砲四門などが配備されました。



現在の鶴御崎灯台

現在の鶴御崎自然公園



※現在の鶴御崎は、戦争当時の地名は鶴見崎であった。